

2026年6月5日

各位

公益社団法人 経済同友会
共助資本主義の実現委員会
委員長 高島 宏平
委員長 井上 ゆかり
委員長 大西 健丞
委員長 程 近智

共助資本主義 第6回マルチセクター・ダイアログのご案内 (第3弾)

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

共助資本主義の実現委員会では、2023年7月に企業とソーシャルセクターが連携し、国内外の様々な社会課題を解決することを目的として「インパクトスタートアップ協会、新公益連盟及び経済同友会の協働に関する連携協定」を締結し、現在、社会課題解決に関するさまざまなイニシアティブを推進しています。

この度、第6回マルチセクター・ダイアログを開催します。第6回では、これまでの活動報告を行うとともに、山口 明夫 代表幹事にパネルディスカッション等にご登壇いただき、「共助成長社会とは(仮題)」をテーマに対話・議論を行います。

また、テーマ別に少人数での対話やピッチセッションの機会を設け、企業やNPOといったセクター間の新たな連携が生まれる場となることを目指します。

会員各位におかれましては、この機会をソーシャルセクター、インパクトスタートアップとのネットワーク、先進事例からの学び、連携活動の推進にご活用いただければと存じます。

この度、参加登録を開始しましたのでご案内いたします。会員の皆様におかれましてはご参加登録いただくとともに、ご所属企業における本案内の展開をお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日時 : 2026年7月1日(水) 15:00 ~ 18:30 (18:30~19:30 懇談会)
2. 場所 : 赤坂インターシティコンファレンス
(東京都港区赤坂 1-8-1 赤坂インターシティ AIR 3F・4F)
3. 形式 : 対面(オンライン配信は予定しておりません)
4. テーマ : 「共助成長社会とは(仮題)」
5. プログラム : 別紙参照
6. 本件ご案内先 : 全会員および会員所属企業関係者
※会員の方は社会課題解決やサステナビリティ等を担当する役員・実務責任者を随行いただき、1社から複数名でのご参加をお願いいたします。
7. ご参加登録方法 : 下記の申込フォームからお一人ずつお申込みください。
申し込みは、**6月17日(水)まで可能**です。**なお、定員に達した場合、締め切ることがありますのでお早目に申し込みください。**
<https://kyojo-md6.peatix.com>
8. 参加費用 : 経済同友会会員および会員所属企業関係者 : 1万円 / 1名
新公益連盟およびインパクトスタートアップ協会会員 : 5千円 / 1名
※上記申込フォーム上でお支払いください。新公益連盟、インパクトスタートアップ協会の方は割引コードを入力の上、割り引かれた金額をお支払いください。

以上

本件に関するお問い合わせ・ご連絡は、下記担当者までお願いいたします。

経済同友会事務局 : 尾形、山内、里、三浦 Email : kyojo@doyukai.or.jp

現在、下記のとおり当日のタイムテーブルを予定しております。

■タイムテーブル（案）

時間	内容
14:30-15:00	開場、名刺交換
15:00-15:10	オープニングトーク 高島宏平(経済同友会 共助資本主義の実現委員会委員長 ／オイシックス 代表取締役社長)
15:10-15:20	開催挨拶 山口明夫 (経済同友会 代表幹事／日本アイ・ビー・エム 取締役社長執行役員)
15:20-15:50	パネルディスカッション「共助成長社会で取り組むこれから」(仮) パネリスト 山口明夫(経済同友会 代表幹事 ／日本アイ・ビー・エム 取締役社長執行役員) 米良はるか(インパクトスタートアップ協会 代表理事 ／READYFOR 代表取締役 CEO) 小沼大地(新公益連盟 共同代表理事 ／NPO 法人クロスフィールズ 共同創業者・代表理事) 藤井 輝夫(経済同友会 共助資本主義の実現委員会副委員長 ／共助資本主義の実現に向けた大学連合 共同発起人 ／東京大学 総長) ※他パネリスト調整中 モデレーター 高島宏平(経済同友会 共助資本主義の実現委員会委員長 ／オイシックス 代表取締役社長)
15:50-18:00	ブレイクアウトセッション テーマ別に、ピッチや対話を行います。いずれかの部屋を選択してご参加ください。 【A】「経営者が出会うべき次世代リーダー」ーインパクトピッチー ・ルームオーナー：米良はるか(インパクトスタートアップ協会代表理事／ READYFOR 代表取締役 CEO) ・概要： これからの「共助成長社会」を担う次世代リーダーによる厳選ピッチセッションです。インパクトスタートアップ協会と新公益連盟から、多様な領域で実績を積む経営者/代表者が登壇。各社が描く社会変革のビジョン、独自のビジネスモデル、そして大企業との共創ニーズをプレゼンテーションします。CVC 投資先の発掘、事業提携、オープンイノベーションの候補となる次世代リーダーと直接つながる機会です。ここでしか実現しない豪華ラインナップをお見逃しなく！

【B】「次なる成長戦略」—インパクト新規事業の共創—

・ ルームオーナー：橋本舜（ベースフード代表取締役）

・ 概要：

気候変動、少子高齢化、地域格差——日本企業が直面する社会課題は、同時に次の巨大な事業機会でもあります。本セッションでは、社会的インパクトを事業の中核に据えて成長軌道に乗せているインパクトスタートアップと、新公益連盟の実践者が集結。大企業の経営層・新規事業責任者が向き合う「社会性と収益性の両立」「既存事業との共創モデル」「人材・組織設計」といった論点を、具体事例とともに徹底議論します。CVC、事業提携、オープンイノベーションの次なる一手を模索する経営層にとって、新たなパートナーシップの起点となるラウンドテーブルです。

【C】「食と農の構造変革」—経済安全保障と地方創生の交差点—

・ ルームオーナー：坪井俊輔（サグリ代表取締役 CEO）

・ 概要：

食料自給率の低下、一次産業の担い手不足、地域経済の衰退——食・農林水産業を取り巻く課題は、日本の経済安全保障と地方創生の根幹に関わる論点です。本セッションでは、テクノロジーと新たなビジネスモデルで構造変革に挑むインパクトスタートアップと、生産現場・流通・地域コミュニティで変革を牽引する新公益連盟メンバーが登壇。バリューチェーン全体での共創、食品企業・商社・小売との連携可能性、投資機会について議論します。食と農の未来を「社会課題」から「成長産業」へと転換する戦略を、全員参加型でともに描く場です。

【D】セクター/領域を超えて価値を発揮できるリーダーの育成

・ ルームオーナー：伏見崇宏（ICHI COMMONS CEO/Founder）

齋藤立（経済同友会 共助資本主義の実現委員会
副委員長／

シグマクシス 執行役員 マネージングディレクター

岡本 祥公子（新公益連盟 理事

／認定 NPO 法人サービスグラント 共同代表）

・ 概要：

これからの企業や組織の持続的成長には、セクターや領域の境界を越えて多岐に渡るステークホルダーを巻き込み、価値を発揮する「リーダー」の存在が不可欠です。

本ルームでは、企業の経営者・担当者、非営利組織や教育機関のリーダー等、セクターを超えた多様な人達が集い、「事業価値と社会価値の創出をいかに両立するか」「その為に価値共創をいかに進めるか」を主題に、それぞれの立場や垣根を超えて、具体的な実践知や悩み事を共有し、今後へのヒントを共に考える創発型のセッションを行います。

現在、取り組みが加速している「Social Wednesday」や「大学連合」等の具体的な参画機会を紹介しつつ、セクターを超えて連携し合い、これからの社会を牽引するリーダー育成について参加者全員で議論を深めます

【E】レジリエントな街づくりと防災・復興の可能性

- ・ルームオーナー：藤沢烈（一般社団法人 RCF 代表理事）
大西健丞（経済同友会 共助資本主義の実現委員会
委員長／特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
代表理事）
今村久美（新公益連盟 理事
／認定特定非営利活動法人カタリバ 代表理事）

・概要：

自然災害の頻発や地方の過疎化・首都圏への一極集中が進む今、防災・復興・地方創生を一体で捉えた「レジリエントな街づくり」が求められています。本ルームでは、地域の再生や有事への備えを地域の魅力向上や経済の活性化へと繋げる、新たな防災・復興・地方創生の在り方の可能性を探ります。

能登の復興プロセスに見られるように、現在、インフラ再生の先にある「暮らし・経済・教育の再建」に向けたセクター横断の挑戦が加速しています。例えば能登をフィールドに、地域資源を活かした新たな教育モデルの構築や、外部人材との共創を後押しするハブ拠点作り等が始まろうとしています。これらの最前線の知見をもとに、官民の強みを掛け合わせることで何ができるか、これからの防災・街づくりの在り方を、参加者全員が自分事として考え、具体的なアクションへと繋げる場とします。

【F】セクター連携で考える今後の教育・雇用のあり方

- ・ルームオーナー：小沼大地（新公益連盟 共同代表理事
／NPO 法人クロスフィールズ 共同創業者・代表理事）

・概要：

企業が直面している人手不足や雇用のミスマッチ、社会における経済格差の拡大やコミュニティの希薄化が生む孤立、教育/体験格差が広がる等、課題が深刻化・複雑化しています。もはや一組織でこれらすべての課題を解決することは困難であり、今こそセクターを跨いだ連携による次世代に向けた雇用や教育の在り方の見直しが強く求められています。

本セッションでは、一組織の枠を超えた協働を通じて「日本の未来を担う若者が個々人のポテンシャルを最大化できる、雇用や教育はどうあるべきか」をテーマに、ヤングプレースレス議連をはじめ、既に力強く芽吹き始めているセクター間連携の共創事例やアイデアを紹介します。それらを踏まえ、これから自組織/自分自身に何ができるかを具体的に考え、次の一歩をとともに見出す機会とします。

	<p>【G】「社会的価値志向経営のモデル構築」</p> <p>—社会価値と企業価値をつなぐ日米比較研究—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ルームオーナー：伊藤健（ソーシャルバリュージャパン 代表理事） ・ 概要： <p>ESG 経営やインパクト経営への関心が高まる一方で、社会的価値を企業価値へと転換し、本業の成長に結びつけるための実践的な経営モデルは、いまだ確立途上にあります。本セッションでは、米日財団の助成プログラムとして進められている「企業の ESG 経営に関する枠組み開発と日米比較事例の共同研究」を題材に、日米企業のケーススタディや有識者ヒアリングから見えてきた、社会性と事業性を両立するための条件や経営上の論点を共有します。参加者とともに、社会的価値を理念や開示にとどめず、戦略・ガバナンス・事業開発・組織運営にどのように組み込めるかを議論し、共助資本主義を企業経営の実践へと接続するための次の一步を探る場とします。</p>
18:00-18:20	全体共有
18:20-18:30	クロージング・閉会挨拶
18:30-19:30	懇談会

■登壇者等プロフィール (6/3 時点)

(現時点でご登壇が決まった方のプロフィールを掲載しております)

■オープニングトーク 15:00-15:10

高島 宏平(経済同友会 共助資本主義の実現委員会委員長/オイシックス 代表取締役社長)

東京大学大学院工学系研究科修了後、マッキンゼー・アンド・カンパニーに入社。2000年にオイシックス株式会社を設立。2013年に東証マザーズに上場。2016年に移動スーパー「とくし丸」を子会社化。2017年に「大地を守る会」、2018年に「らでいっしゅぼーや」と経営統合し、2020年に東証一部(現プライム市場)へ市場変更。2025年9月に「シダックスフードサービス」などを完全子会社化し、給食事業も展開する。



■開会挨拶 15:10-15:20

山口 明夫(経済同友会 代表幹事/日本アイ・ビー・エム 取締役社長執行役員)

和歌山県出身。1987年日本IBM入社。エンジニアとして金融機関のシステム開発・保守を担当後、経営企画、マーケティング、ソフトウェア製品販売、米国IBM役員補佐等を歴任。コンサルティング、システム開発・保守、アウトソーシングなどのサービス事業担当を経て、2019年5月から現職。米国IBM本社の経営執行委員としてグローバルな戦略立案と実行にも関わる。障がい者雇用の新しいモデル確立を目指す、企業アクセシビリティ・コンソーシアム(ACE)代表理事、サーキュラーエコノミーに関する産官学のパートナーシップ ガバニングボード委員、経済産業省 価値創造経営小委員会委員、財務省 財政制度等審議会委員等も務める。2026年1月より経済同友会 代表幹事。



■ パネルディスカッション「共助成長社会で取り組むこれから」15:20-15:50

山口 明夫(経済同友会 代表幹事/日本アイ・ビー・エム 取締役社長執行役員)

米良はるか(インパクトスタートアップ協会 代表理事/READYFOR 代表取締役 CEO)

慶應義塾大学経済学部、同大学院メディアデザイン研究科(KMD)卒業。2011年日本初のクラウドファンディング「READYFOR」を開始。2014年に株式会社化し、代表取締役CEOに就任。2011年に世界経済フォーラム「グローバル・シェイパーズ」に選出。日本人として史上最年少でダボス会議に出席し、2025年には「ヤング・グローバル・リーダーズ」に選出される。これまでに「人生100年時代構想会議」「未来投資会議」「新しい資本主義実現会議」などの有識者構成員を務める。2022年10月より、一般社団法人インパクトスタートアップ協会の代表理事も務める。



小沼大地(新公益連盟 共同代表理事/NPO 法人クロスフィールズ 共同創業者・代表理事)

青年海外協力隊としての中東シリアでの活動、マッキンゼー・アンド・カンパニーでの勤務を経て2011年にクロスフィールズを創業。ビジネスパーソンが新興国で社会課題解決にあたる「留職」をはじめ、ビジネスとソーシャルをつなぐ様々な活動を展開。日本国内のNPOのネットワーク組織である新公益連盟の共同代表も務める。2016年にハーバード・ビジネス・レビュー「未来をつくるU-40経営者20人」に選出。著書に『働く意義のを見つけ方—仕事を「志事」にする流儀』(ダイヤモンド社)。2児の父で、地域の少年野球チームの監督や小学校のPTA役員も務める。



藤井 輝夫(経済同友会 共助資本主義の実現委員会副委員長

／共助資本主義の実現に向けた大学連合 共同発起人/東京大学 総長)

1993年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了・博士(工学)、同生産技術研究所や理化学研究所での勤務を経て、2007年東京大学生産技術研究所教授、2015年同所長。2018年東京大学大学執行役・副学長、2019年同理事・副学長(財務、社会連携・産学官協創担当)を務め、2021年より現職。その他、2005年から2007年まで文部科学省参与、2007年から2014年まで日仏国際共同研究ラボ(LIMMS)の共同ディレクター、2017年から2019年までCBMS(Cheical and Biological Microsystems Society)会長、2021年から2024年まで総合科学技術・イノベーション会議議員(非常勤)、2025年6月より国立大学協会会長。バングラデシュ・アジア女性大学より名誉博士号授与。専門分野は応用マイクロ流体システム、海中工学。



■ブレイクアウトセッション 15:50-18:00

【A】「経営者が出会うべき次世代リーダー」—インパクトピッチ—
ルームオーナー

米良はるか(インパクトスタートアップ協会 代表理事/READYFOR 代表取締役 CEO)

【B】「次なる成長戦略」—インパクト新規事業の共創—
ルームオーナー

橋本舜 (ベースフード株式会社 代表取締役)

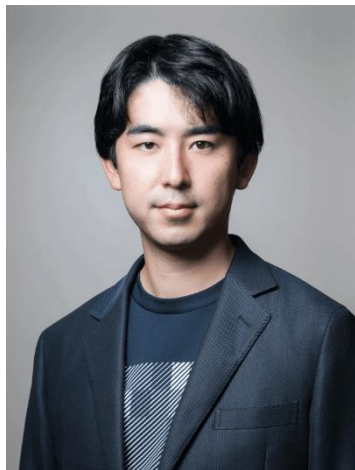
1988年生まれ、大阪府出身。東京大学教養学部を卒業後、株式会社DeNAに入社し、新規事業の立ち上げを手がける。2016年4月に「主食をイノベーションし、健康をあたりまえに。」をミッションに、ベースフード株式会社を創業し、世界初の完全栄養の主食「BASE PASTA」を開発した。完全栄養の主食「BASE FOOD」は、累計販売数1億袋を突破、定期購入者数は20万人を超えた(2023年5月時点)。2022年11月東証グロース市場上場。「Forbes JAPAN 日本の起業家ランキング 2023」第4位。



【C】「食と農の構造変革」—経済安全保障と地方創生の交差点—
ルームオーナー

坪井 俊輔 サグリ株式会社 代表取締役 CEO

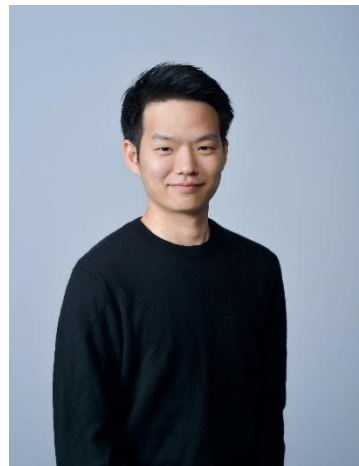
横浜国立大学工学部機械工学科卒。2018年、サグリを創業。Forbes 「世界を変える30歳未満30人」の1人に日本版およびアジア版で選出。農林水産省「デジタル地図を用いた農地情報の管理に関する検討会」委員。経済産業省「2050年カーボンニュートラルの実現に向けた若手有識者検討会」委員。第6回宇宙開発利用大賞において内閣総理大臣賞を受賞。



【D】セクター/領域を超えて価値を発揮できるリーダーの育成
ルームオーナー

伏見崇宏 (ICHI COMMONS CEO/Founder)

2014年慶應義塾大学法学部卒。米アラバマ州で幼少期を過ごし、学生時代に教育系NPOのHLAB立ち上げに携わる。2014年にGeneral Electric入社、FMPプログラムの一環でコーポレートファイナンスを中心としたプロジェクトに従事した後、インパクト投資の中間支援をする一般社団法人C4に事務局長として参画。同時期に米系ファンドEVOLUTION FINANCIAL GROUPの投資銀行部門にて、上場株式投資のアレンジャー業務に従事。2020年、ICHI COMMONS株式会社を創業し、共助共創プラットフォーム「サステナ Net」を通じて企業やNPO・社会的事業の社会課題解決の促進支援に取り組む。



**齋藤立 (経済同友会 共助資本主義の実現委員会 副委員長
/シグマクス 執行役員 マネージングディレクター)**

戦略系コンサルティングファーム、投資ファンドを経て、創業期のシグマクスに参画。経営者のシェルパとしてビジョンと価値創造ストーリー創りから事業・組織開発まで、一貫通貫での変革支援が注力テーマ。250社を超える変革実績を有する。またシグマクス・グループのB Corporation認証取得をリードし、社内外の人財・エコシステムを活かした社会価値の創造に取り組む。



岡本 祥公子 (新公益連盟 理事/認定 NPO 法人サービスgrant 共同代表)

1981年兵庫県生まれ。慶應義塾大学卒業後、クリエイター支援に取り組む企業を経て、2009年初スタッフとして入職。事務局長、理事を経て、2025年4月より共同代表。NPO・地域団体、町会自治会など非営利組織の運営上の課題解決に社会人が仕事の経験を活かしてボランティアとして関わり成果を目指す「プロボノ」の草分け的存在として国内最大規模のプロジェクト運営に取り組む。CSR、人材育成、サステナビリティなど企業施策におけるプロボノの企画・運営支援の他、首都圏と地方の対流と関係人口の創出を目指す「ふるさとプロボノ」なども担当し様々な企業・行政等と協働。サービスgrantの活動開始20年を機に「プロボノ白書」を昨年11月に刊行。



【E】レジリエントな街づくりと防災・復興の可能性

ルームオーナー

藤沢烈(一般社団法人 RCF 代表理事/能登官民連携復興センター センター長)

一般社団法人 RCF 代表理事。新公益連盟事務局長。石川県・能登地震復旧・復興アドバイザーボード委員。復興庁復興推進委員。

一橋大学卒業。マッキンゼーを経て独立し、NPO・社会事業などに特化したコンサルティング会社を経営。東日本大震災後、一般社団法人 RCF を設立し、情報分析や社会事業創造に取り組む。



大西健丞(経済同友会 共助資本主義の実現委員会 委員長

／特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン 代表理事)

1967年大阪府生まれ。上智大を卒業後、英国ブラッドフォード大学の大学院で紛争解決や人道介入を学ぶ。大阪大学人間科学研究科博士課程(単位取得)。1996年にピースウィンズ・ジャパンを設立。イラク、アフガニスタン、ウクライナなどこれまで世界39カ国での人道支援を指揮してきた。

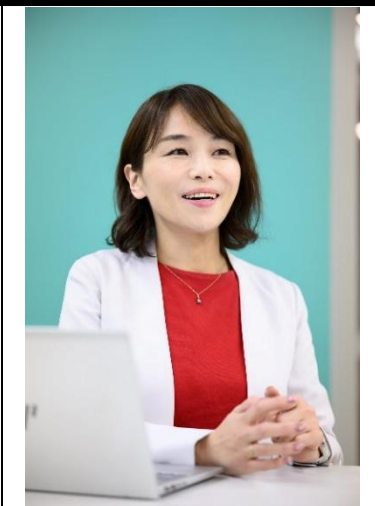
2000年にNGO、経済界、政府の連携による国際人道支援組織ジャパン・プラットフォームの設立に参画。2012年には、アジア太平洋地域の相互協力による災害対応を目的とした Asia Pacific Alliance for Disaster Management を設立した。

近年は、ピースウィンズが本部を置く広島県神石高原町を拠点に、国内の山間部や島しょ部などの地域振興、動物福祉などの活動にも力を入れている。また、医療を軸とした災害時の緊急支援を強化するため、2019年に「空飛ぶ捜索医療団 (ARROWS)」プロジェクトを立ち上げた。



今村久美(新公益連盟 理事/認定特定非営利活動法人カタリバ 代表理事)

慶應義塾大学卒。2001年にNPOカタリバを設立し、高校生のためのキャリア学習プログラムの提供を開始。どんな環境で育つ10代も、意欲と創造性を育める社会を実現するため、不登校・貧困・外国ルーツなど様々な課題の中で生きる子どもたちを支援したり、新しい時代の教育への対応として、高校の学びを探究学習型へと広げていく取り組みに力を入れるなど、社会の変化に応じてさまざまな教育活動に取り組んでいる。ハタチ基金代表理事。地域・教育魅力化プラットフォーム理事。文部科学省中央教育審議会委員。東京大学経営協議会学外委員。



【F】セクター連携で考える今後の教育・雇用のあり方
ルームオーナー

小沼大地（新公益連盟 共同代表理事／NPO 法人クロスフィールズ 共同創業者・代表理事）

荒井 佑介(特定非営利活動法人サンカクシャ 代表理事)

2008 年よりホームレス支援や子どもの貧困問題に関わり始める。

生活保護世帯を対象とする中学 3 年生の学習支援に長く関わっていた経験を通じて、高校進学後に、中退、妊娠出産、就職で躰く子達を多く見たことから、2019 年に NPO 法人サンカクシャを立ち上げる。サンカクシャでは、15 歳から 25 歳前後までの親や身近な大人に頼れない若者の居場所作りや進路就職のサポート、住まいのサポートを行なっている。

2024 年度、第 34 期東京都青少年問題協議会委員を務める。



【G】「社会的価値志向経営のモデル構築」

—社会価値と企業価値をつなぐ日米比較研究—

ルームオーナー

伊藤健(ソーシャルバリュージャパン 代表理事)

博士（政策・メディア）、MBA (International Management)
同志社大学 政策学部・総合政策科学研究科 客員教授
日系メーカー、GE International、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任助教・特任准教授を経て現職。社会的インパクト評価、ソーシャル・インパクト・ボンド、社会的投資を専門とし、G8 社会的インパクト投資タスクフォース日本諮問委員会事務局等へ参画。ソーシャルバリュージャパンでは、企業・行政・非営利組織に対する社会的インパクトについてのコンサルティング事業を通じて、日本における社会的インパクト評価、社会的投資の普及促進に取り組んでいる。

